

2011年 10月12日・「埼玉新聞」では

「平和と友好」に貢献

ベトナム戦争での枯れ葉剤による被害者支援に取り組み、ベトナム平和友好勲章を贈られた作家平松伴子さん（70）＝川越市。「積み重ねられた支援と信頼関係があつてこそ」

ベトナム友好協 川越の平松さんに勲章 枯れ葉剤被害支援に貢献

ベトナム戦争で米軍が使用した枯れ葉剤による被害者の支援活動に取り組む「日本ベトナム平和友好連絡会議」（会長・村山富市元首相）の会員で、作家の平松伴子さん（70）＝川越市在住＝が、ベトナム社会主義共和国の55市省の各友好協会で組織する「ベトナム各友好協会連合」（ヴ・シュアン・ホン会長）から「平和と友好に貢献した」として、「ベトナム平和友好勲章」を受章した。平松さんによると、同勲章はこれまでに、世界で488人が授与されており、日本では村山元首相や同連絡会議の役員ら数人が受章しているという。

（毛利伸一）

同連絡会議は1999年、枯れ葉剤の被害者に対する支援を目的に設立。日本で開催するベトナムアンサンブルコンサートの収益金などを活用し、重症者の入院やリハビリなどを金銭的に支援したり、被害者らの職業訓練センターを建設している。会員は全国で約300人。

平松さんが会員になったのは、2004年に知人に誘われて重症者に車椅子を寄贈するために現地へ行ったのがきっかけ。以降、7年間で計16回、ベトナムを訪れ、重症者の支援や少数民族の子どもが高校に通学できる資金を提供したり、来日した学生を自宅にホームステイさせている。

また、平松さんは08年から10年にかけて、ベトナムの南北統一と独立に貢献し、ベトナム社会主義共和国で副大統領を務めたグエン・ティ・ビン女史（84）にインタビューを敢行。昨年11月、その軌跡をまとめた「世界を動かした女性―ベトナム元副大統領の勇気と愛と悲しみ―」を出版した。

平松さんによると、同女史はベトナム戦争中の拡大パリ和平会談で、南ベトナム共和臨時革命政府の首席として米国と交渉するなど、米国が最も恐れた女性とされ、現在の共和国成立後は文部大臣や副大統領を歴任。今でも枯れ葉剤被害者の救済のために活動しているという。

平松さんによると、同女史はベトナム戦争中の拡大パリ和平会談で、南ベトナム共和臨時革命政府の首席として米国と交渉するなど、米国が最も恐れた女性とされ、現在の共和国成立後は文部大臣や副大統領を歴任。今でも枯れ葉剤被害者の救済のために活動しているという。

平松さんは「ビン女史の本が認められたのかもしれないが、これまで先輩たちが積み重ねてきた支援活動と相互の信頼関係があつたからです。将来的には、基金などにより、現地に『埼玉平和村』と呼べるような被害者が生活できる施設を建設したい」と抱負を語っている。

と紹介されています。